

## I &lt;建設・顧客&gt;

## 2027年のあるべき姿

- ◎ 最高水準の施工・サービス品質の追求
- ◎ すべてのお客様の最上満足度の実現

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 土木事業：国土交通省の工事成績 評定点の対象年度平均点	78点以上	80.2点	◎
2. 建築事業：お客様アンケートA評 価の割合	80%以上	90.4%	◎
3. 国際事業：技術講習会の実施回数	2回以上/年	10回/年	◎
	<活動計画>	<活動実績>	
	1. 品質パトロールを効率的に実施し、現場の問題課題の早期発見と解決を図ります。	1. 品質パトロールの強化による製品事故の撲滅が達成できました。	
	2. 顧客の要望・要求を的確に把握し、施工します。	2. 顧客の要望・要求を施工部門と共有し、高評価をいただきました。	
	3. 各国のローカル職員を対象とする技術講習会の開催するとともに、日本人若手職員に対する講習会も開催します。	3. 技術講習会の開催により、基礎的な項目に関して一定の効果がみられました。	
			自己評価： ◎ = 達成 ○ = ほぼ達成 △ = 未達成

## 今後の方策

1. 支社幹部と現場のコミュニケーションを強化することにより、現場における問題の早期発見と解決に取り組みます。
2. お客様の要望を把握し、施工中も含めて安心かつ喜んで頂ける施工ができるよう職員の教育を再徹底します。
3. 海外における研修を継続するうえで、ローカル職員や日本人の若手職員に対する講習会を継続的に開催します。



## Ⅱ <安全・健康>

### 2027年のあるべき姿

#### ◎労働災害ゼロの実現

#### ◎長時間労働の解消と快適職場の実現

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 休業4日以上 の度数率	0.6以下	1.02	△
2. 休業1日以上 の度数率	1.0以下	1.81	△
3. 月残業時間80時間以内の職員数割合	100%	95.9% (土木) ,95.1% (建築)	○
4. 海外駐在社員の休暇取得率	95%以上	94%	○
	<b>&lt;活動計画&gt;</b> 1. 安全に関する好事例の取り組みを水平展開し、職員の安全意識の底上げを図ります。 2. 職長・安全衛生責任者への再教育の受講率向上を図ります。 3. ICT活用、生産性向上、土曜閉所へ取り組み、長時間労働の改善を図ります。 4. 海外駐在社員の計画的な休暇取得を推進させます。	<b>&lt;活動実績&gt;</b> 1. 好事例を社内情報や研修で水平展開しました。 2. 5年以内ごとに受講する職長能力向上教育の受講を徹底させました。 3. 社員にタブレットを配布し、現場でのICT活用を促進させました。 4. 海外駐在社員の休暇取得意識が着実に定着してきている。	

自己評価： ◎ = 達成 ○ = ほぼ達成 △ = 未達成

### 今後の方策

1. 度数率が目標を達成できないなど、安全に対する取り組みの強化が必要です。指差呼称の定着を徹底するため、現場に2つ以上の指差呼称内容を決定させ、パトロール時に定着状況を確認します。
2. 安全大会時に協力業者に対する事業主教育を行い、事業主としての責務を認識させるよう努めます。
3. 休日取得実績は向上したものの、長時間労働を削減するという更なる意識改革が必要です。生産性向上に資するアプリの導入など、更なるICT活用による長時間労働の改善を図ります。
4. 海外駐在社員の休暇取得率を向上するために、実情に合わせた利用しやすい規約の改定を実施しました。今後も更なる利用促進に向けた啓発活動を実施します。



## Ⅲ <雇用・人権>

### 2027年のあるべき姿

◎働き続けられる職場づくり

◎公平・公正な雇用の創出

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 離職率	1.5%未満	1.7%	△
2. 女性総合職比率	4.5%以上	4.6%	◎
	<b>&lt;活動計画&gt;</b>	<b>&lt;活動実績&gt;</b>	
	1. 退職理由の分析・対応策検討を実施し、離職率を低下させます。	1. 長時間労働が大きな課題であると判断し、削減へ向けた取り組みを各事業部門単位で実施しました。	
	2. 女性活躍推進法に基づく計画を継続実施します。	2. 新卒女性総合職の採用数を増加させました（新卒女性比率4.3%）。	
			自己評価： ◎=達成 ○=ほぼ達成 △=未達成

### 今後の方策

- 社員がやりがいを持って働ける環境を創造するため、納得感のある新人事制度を企画・作成し、運用を開始します。また、社員の意識を変革するため、「変えるマインド研修」を実施します。
- 多様な働き方を推進させるため、フレックスタイム・テレワーク・時間単位有給休暇等の制度を試行し、導入へ向けた検討を行います。



## IV <ガバナンス>

### 2027年のあるべき姿

- ◎説明責任に対応したコーポレートガバナンスの確立
- ◎業務と組織の見える化による信頼確保
- ◎コンプライアンスの徹底
- ◎徹底したリスク管理による事業の継続性と信頼確保

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 監査法人からの評価および指摘事項	指摘事項ゼロ	指摘事項ゼロ	◎
2. リスクマネジメント ハイリスク項目数	高リスク (A) ゼロ	1件	△
	<b>&lt;活動計画&gt;</b> 1. RN21システムの健全性・有効性を継続させます。 2. リスク管理対策シートを活用して対応策の有効性を議論・評価します。	<b>&lt;活動実績&gt;</b> 1. RN21システムに対する指摘事項はゼロとなりました。 2. 各部署にてリスク低減活動を実施しました。	

自己評価： ◎=達成 ○=ほぼ達成 △=未達成

### 今後の方策

- コンプライアンス推進活動においては、引き続きコンプライアンス推進部・コンプライアンス委員会・及び関係各部署が連携し、情報の共有を図るとともに継続的な各階層別研修とeラーニングの実施により意識高揚を図っていきます。
- 各部署にてリスク低減活動は実施しましたが、2018年度末の高リスクは1件となりました。引き続きリスク低減活動を実施するとともに、抽出されたリスクを継続的にモニタリングする仕組みを作り、リスク低減に努めます。



## 2027年のあるべき姿

- ◎環境経営先進企業にむけた取組み
- ◎環境コンプライアンス維持基盤の確立と永続的な継承
- ◎環境ソリューション事業の積極展開

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. CO <sub>2</sub> 排出原単位 (t-CO <sub>2</sub> /億円)	2016年度比 2%削減	2016年度比 1,499t	◎
2. 建設廃棄物の最終埋立処分率 (%)	3.0%以下	2.8%以下	◎
3. 現場活動以外での生物多様性保全活動実施件数 (件)	2件以上	4件以上	◎
	<b>&lt;活動計画&gt;</b> 1. CO <sub>2</sub> 排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>● バイオディーゼル燃料・軽油 燃焼促進剤(K-S1)の導入促進</li> <li>● 固定オフィスの完全LED化</li> </ul> 2. 廃棄物ゼロエミッションの追求 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 西松分別ルールの実用による 混合廃棄物の削減</li> </ul> 3. 生物多様性保全活動の実践	<b>&lt;活動実績&gt;</b> 1. ● バイオディーゼル燃料:123,762.1ℓ、K-S1:2,156.5ℓを導入しました。 ● 現場仮設照明のLED化を進め、仮設照明を使用する全現場に導入しました。 2. ● リサイクル業者の協力のもと、ルールに沿った廃棄物の分別を徹底し、最終処分率は2.08%になりました。 3. ● 各現場で生物多様性に配慮した施工を実施しました。また、本社（富士山）および、関東土木支社（にしまつの森）他、全国各地で生物多様性保全イベントを実施し、社員に向けて意識高揚を図りました。	
自己評価： ◎=達成 ○=ほぼ達成 △=未達成			

### 今後の方策

- 環境経営先進企業として、事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを実現し、世界の共通課題である「脱炭素」に貢献していきます。
- 廃棄物の適正処分とリサイクルをさらに進め、更なる最終埋立処分率の低減を目指します。
- 全現場での生物多様性保全活動のベースとなる社内ガイドブックを更新するとともに、本社・支社における自主的な生物多様性活動を積極的に実施します。



## Ⅵ <地域・社会>

### 2027年のあるべき姿

◎企業市民としての積極的社会参加

◎事業スキルを活かした貢献

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 年間社会貢献活動実施数	80件/年  <活動計画> 1. 地域社会と良好な関係の構築につながる社会貢献活動を実施します。	41件  <活動実績> 1. 国内外で様々な活動が実施されました。 <ul style="list-style-type: none"><li>高知県のダムナイトツアー</li><li>西日本豪雨災害における災害復旧活動</li><li>北海道の植樹活動</li></ul>	△

自己評価： ◎ = 達成 ○ = ほぼ達成 △ = 未達成

#### 今後の方策

- 社会貢献活動の報告数が減少してきているため、社員一人ひとりが社会貢献活動の意義を再認識し、さらなる活動の展開が図れるような仕組みづくりを行っていきます。



## Ⅶ <産業・サプライチェーン>

### 2027年のあるべき姿

◎適正なCSRサプライチェーンの構築

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 年度ごとのNネット会員への発注率（金額ベース）	【土木】70%以上 【建築】躯体系90%、仕上系60%以上  <活動計画> 1. Nネット会員と現場支店支社の距離感を近づける取組みを進めていきます。	【土木】76.3% 【建築】躯体系86.2%、仕上系58.7%  <活動実績> 1. Nネットホームページに今後発注予定を開示し、計画発注に取り組みました。	○

自己評価： ◎ = 達成 ○ = ほぼ達成 △ = 未達成

#### 今後の方策

- Nネット会員企業に発注することの優位性を明確にし、当社と会員企業がin-Winとなる関係を構築する仕組みづくりをおこなっていきます。



### 2027年のあるべき姿

- ◎ CSR活動の積極的発展
- ◎ CSR活動の適切性確保

K P I	2018年度目標	実績	自己評価
1. 投資家むけ現場見学会の年間開催件数	1回以上  <活動計画> 1. 投資家から要望が高いシールド現場での見学会を開催します。 2. ヨーロッパで海外IR活動を行います。	1回以上  <活動実績> 1. 横浜のシールド現場で見学会を開催しました。 2. スイス・イギリスでIR活動を行いました。	◎

自己評価： ◎=達成 ○=ほぼ達成 △=未達成

### 今後の方策

- 投資家との対談を積極的に実施します。
- 国内大規模現場での見学会を開催します。

